

令和5年度予算のあらまし

一般会計では、新型コロナウイルス感染症対策費や、市営住宅建設費の増加などにより、前年度比218億円増の6,147億円と、当初予算では過去最大の規模となりました。

また、特別会計は公債管理特別会計における公債費の増加などにより52億円増加、企業会計はガス事業における原料費の増加などにより245億円増加し、一般会計・特別会計・企業会計を合計した市全体の予算総額は1兆1,891億円と、震災以降引き続き1兆円を超える規模となりました。

歳入 市税収入や国庫支出金が増加

市税収入は、土地に係る軽減措置の終了等による固定資産税の増加などにより、74億円増加しました。また、国庫支出金は、社会資本整備総合交付金の増加などにより、56億円増加しました。

歳出 義務的経費は減少、投資的経費は増加

【目的別の歳出】 新型コロナウイルス感染症対策費などが増加した健康福祉費が2,456億円（40.0%）となり、最も大きな割合を占めました。次いで学校建設費などが増加した教育費が1,049億円（17.1%）、土木費が604億円（9.8%）、公債費が587億円（9.5%）となりました。

【性質別の歳出】 人件費、社会保障関係費等の扶助費、借入金の返済である公債費を合わせた義務的経費は、扶助費と公債費は増加しているものの、定年延長となった職員の退職手当が後年度に支給されることなどから人件費が減少し、前年度に比べて34億円の減少となりました。また、投資的経費は、鶴ヶ谷第二市営住宅団地の再整備に係る経費の増加などにより、前年度に比べて100億円の増加となりました。

「未来を開く、一人ひとりの挑戦と活躍を支えるまち」の実現に向けた重点的な予算配分

本年度予算においては、歳入歳出両面から財政運営の持続性確保に努めるとともに、コロナ後も見据えた本市の未来のまちづくりに踏み出すため、施政方針に掲げた施策の3つの柱である「ひとが輝く、デジタル化を推進する」・「ひとの暮らしを支え、未来の担い手を育む」・「すべてのひとが活躍できるまちの魅力創造し、発信する」に重点的な予算配分を行いました。

また、長らくコロナ禍や物価高騰への対応が引き続き必要であることに加え、社会保障関係費や公共施設の長寿命化対策費等の増加が見込まれることから、中長期的な視点で、持続可能な財政基盤の確立に向け取り組みを進めていきます。

予算についてのお問い合わせは
財政企画課 ☎214・8111、FAX262・6709、
または市ホームページ [仙台市の財政](#)

- **一般会計**…特別会計、企業会計以外の全ての歳入・歳出を經理。行政運営の基本的な経費を計上する会計
- **特別会計**…国民健康保険や介護保険など、その事業に要する経費が保険料など特定の収入で原則賄われる会計
- **企業会計**…民間企業と同じように原則としてサービスの提供で収益を上げ、その収益で費用を賄う事業の会計。仙台市には下水道、バス、地下鉄、水道、ガス、病院の各事業があります

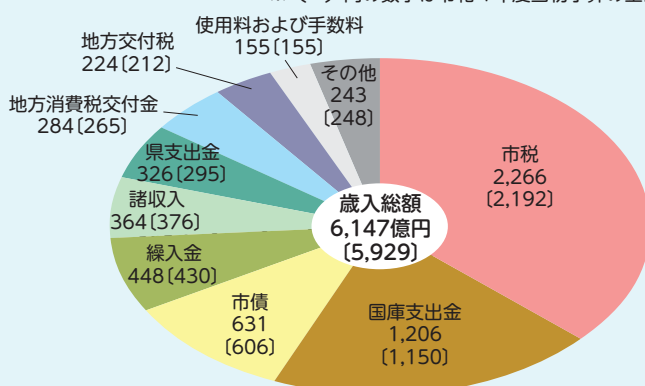
令和5年度の会計別の予算規模

	令和5年度（前年度比）
一般会計	6,147億円（218億円増加）
特別会計	3,203億円（52億円増加）
企業会計	2,541億円（245億円増加）
合計	1兆1,891億円（515億円増加）

歳入内訳（一般会計）

（単位：億円）

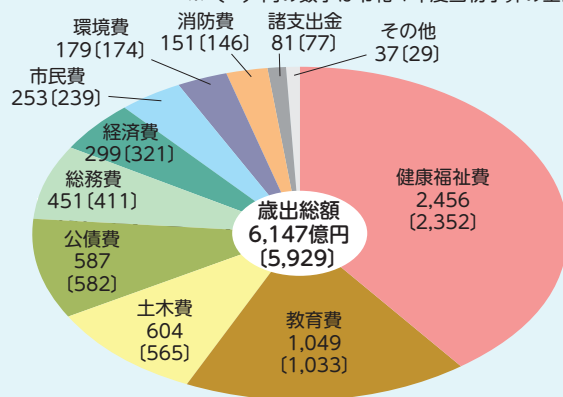
※〔 〕内の数字は令和4年度当初予算の金額



【目的別】歳出内訳（一般会計）

（単位：億円）

※〔 〕内の数字は令和4年度当初予算の金額



【性質別】歳出額（一般会計）の推移

（単位：億円）

